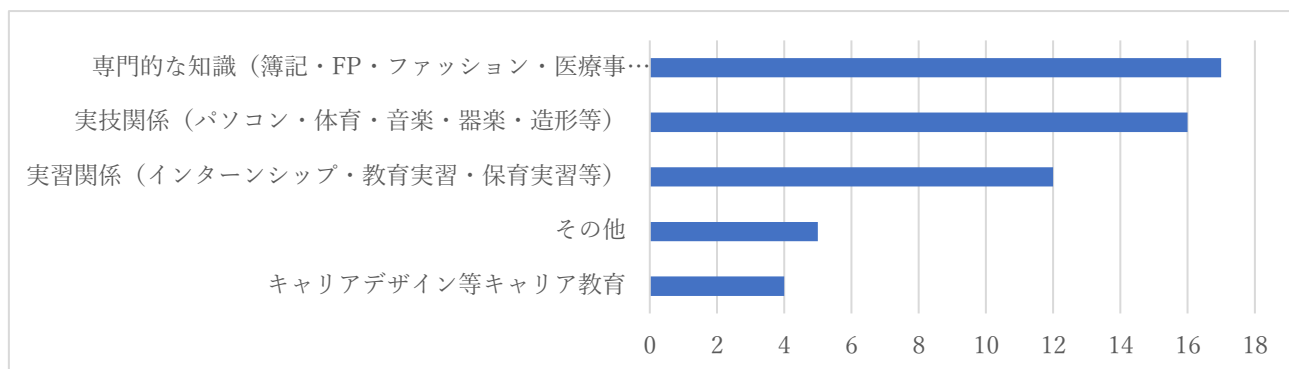


## 令和6年度「卒業後の状況に関する状況調査」

令和6年度同窓会定期総会の参加確認調査時に「卒業後の状況に関するアンケート」を実施した。

- ・ 発送日：2004年8月1日
- ・ 集計日：2004年10月1日
- ・ 発送数：13,330通（戻り：320通）
- ・ 返信総数：53通
- ・ アンケート回答者：32人
- ・ 回答率：0.3%

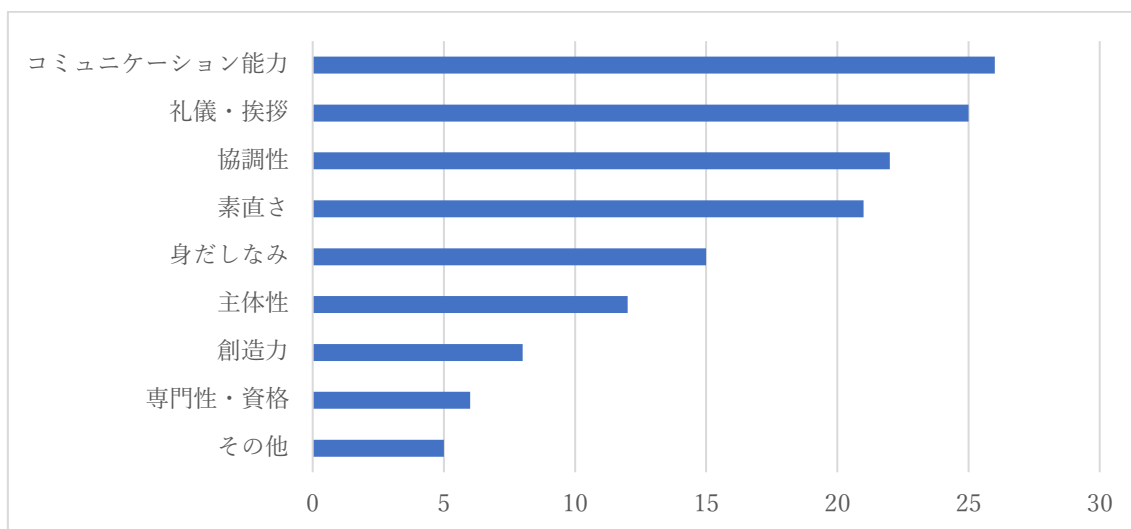
### Q1.短大で学んだことで卒業後に役立ったことは何ですか？（複数回答可）



#### 【その他】

- ・ 当時、公務員で2部で学ぶ。同様な自治体なる方が居て、その中3人と友人となり、今でも仲間であることができたこと
- ・ 事務実務概論、経済学等
- ・ 人との繋がり、縁
- ・ 高校生時代と違う人間付き合いなど

## Q2.社会人として求められることは何だと思いますか？（複数回答可）



### 【その他】

- ・謙虚さ
- ・突発的なことにも柔軟に対応できる臨機応変さ。物事をスムーズに進める段取り力
- ・明るく、元気、前向き
- ・向き合うこと。人と。仕事と。目の前のことと
- ・体力、健康

## Q3.現在の仕事、会社のこと、後輩に伝えたいことなどを自由にお書きください。

- ・自分の「やってみたい」「こうしたい」という気持ちを大事にしてほしいです。
- ・自分の持ちネタが多いほど自分を助ける事に繋がると思います。
- ・新卒さんの就職お待ちしております！！
- ・2年間で4年間分を学ぶ事が出来た、と思い、何にも自信を持って取り組んで欲しいと思います。
- ・バイトをして少しでも社会を知ることをおすすめします。
- ・経短では、専門的なことはもちろん、教養や礼儀についてちゃんと教えてもらったなと思います。働いてみると、実は一番大事なのが専門性より、常識や礼儀です。しっかり教えてもらえてよかったなと思っています。
- ・教職34年にして初めて特別支援学級を担任することになりました。今年度は、それに関わる研修を受けながら今までの経験を生かし仕事に取り組んでいます。外国語、ICT等々、社会の変化とともに現場も日々変化しています。それに合わせ、新しいことも個人研修や職場の授業研究などで吸収しつつ学校全体でチームとして活動しています。お互いの協力無しでは、現場は難しいと感じます。在学中に学んだことは、無駄なく生かされています。

すが、やはりいくつになっても学びは大切なんだなあと思います。今、できること。今しかできないことをよく考えて、学び、実践に繋げてほしいです。

- ・短大での学びを活かせる場面がたくさんありますので勉学に励んでください。
- ・石の上にも3年、健康第一諦めも肝心、気楽に気楽に流れに任せて、やりたいことをやりましょう、夢が一番、
- ・人生、後悔しないように。
- ・何かを習得すれば本人が生きてる時代位は通用するよ
- ・どんな仕事も周りの人たちとの連携で成り立っています。周りの人たちに感謝の気持ちを忘れずに社会人として活躍されることを期待しています。
- ・卒業して10年以上経ちますが、本校で学んだことは少なからず今の自分の糧になっています。身につかないこともあるかもしれませんが、何事も経験だと思ってます。正規職員ではありませんが、資格を取得し働けることが有難いです。
- ・社会人になるとなかなか時間がないので、学生のうちに沢山資格を取ることをお勧めします。
- ・短大で過ごした学びやご縁は、今もずっと繋がっており、感謝いたします。本学園90周年を迎え、さらなる学園の未来を拓くためにそれぞれできる事をスキルアップし、常に自身を上書きしながら楽しく仕事ができることがいいですね！学園のために、自分のために、共に頑張りましょう！
- ・事務系の仕事する方は簿記やパソコンを使いこなせるとやりやすいかなと思います！色々な職業を比べて自分に合う仕事を探すべき！
- ・現在は会社のホームページを作成したりお客様アンケートの集計をしたりしています。Excelの使い方やホームページの作り方などビジネスライフ学科で学んだことが活用できていると思います！
- ・バス会社で一般総合職の総務部を担当しております。主に電話対応や従業員に関わる申請書類の作成、新卒採用のサポート、最近では給与計算など幅広く業務を行っています。就職活動は、終活するまで気が抜けないと思います。私は実際12月まで内定をいただけなかった身です。出来れば早めに行動をし、自分に合いそうだなと思える企業を見つけて欲しいです。ですが、1人で活動するのではなく周りの人に沢山相談して下さい。自分では見えなかった部分が見えてくると思います。緊張感を持ちつつ無理せず自分のペースで頑張ってください。
- ・インターンシップや実習では、自分が与えられた仕事に取り組むだけでなく、実際に働いている人を観察するのもおすすめです！

以上